幼児だより
1月

あけましておめでとうございます！今年もよろしくお願い致します。

年が明けて子ども達の元気な声が戻り、静かだった保育園が一気に華やいでいます。厳しい寒さが続きますが、今年も子ども達と一緒に楽しく過ごしていきたいと思います。

12 月はクリスマス一色だったみどり野保育園。園内もクリスマスの装飾がされ、歌を歌ったり絵本を見たり製作をしたりと、子ども達もワクワクしながらクリスマスの雰囲気を楽しんでいました！！

そして、クリスマスと言えば何と言ってもクリスマス会！
3・4・5歳児で作り上げるオラトリオでは、くじらさんが中心となりそれぞれの役になって歌を歌ったり、台詞を言ったり、動きを覚えたりして、当日に向けて期待いっぱいで取り組んでいました。いるかさんらっこさんも、くじらさんの姿を見て真似してみる姿も見られ、憧れている様子でした。

クリスマス会本番は、子ども達も緊張していましが、それまで重ねてきた練習を自信にして、胸を張って発表することができました！

クリスマスツリーの飾り付けもみんなでしました☆

12 月 1 日からクリスマスまで毎日めくっていくアドベントカレンダー。
中には、子ども達が作ったサンタさんやトナカイの作品が入っていました。
子ども達は、だんだん近づいていくクリスマスを今か今かと待っていました！

みんなで大掃除！！
椅子や机、壁などを拭いて、1年間使ったお部屋をピカピカにしました！

お誕生日会&クリスマスお楽しみ会☆
楽器の演奏をしたり、爆弾ゲームをしたり、誕生日会メニューの給食をみんなで食べたりして楽しみました！！

生き物のお世話

　カブトムシの幼虫を24匹も手に入れた私たち（笑）
色々な育て方があるようですが、ある方からのアドバイスを基に、定期的に幼虫の糞を取る作業をします。（住んでいる場所を清潔に保つため）始めは、保育士がしていたのですが、興味のあるＣちゃんは、毎回のように、「やりたい」と糞取りをしてくれます。実は、虫が苦手な保育士も中にはいて、「キャーキャー」言っている傍で、黙々と。
　そして、他児にアドバイス。
　「手で触っちゃダメやねんで」「このスプーン(プラスティック製スプーン)で取んねんで」「これがウンチ(丸い黒いもの)」「やさしくね」
幼虫アドバイザーかのように、お世話に興味があるお友だちに自ら教えてくれています。

　私たちが話している言葉をしっかり自分のものにして、伝えられる力があることに、立派だなと感じます。それも、一人ひとりに嫌な顔をせず、言い方も優しく。大人だったら、何回も同じ説明をすることに疲れちゃったり、１回で聞いてよ～っと心が折れることもありますが、彼女は健気に付き合ってくれるタイプです。
　この優しい気持ちに「ありがとう」と伝えると、ニッコリいい笑顔！さらに嬉しくなりました。

うみ　ヴィジブル　1月

こんなとこにも気づくのね

味噌汁の中をのぞいて、「なんか、へん」という言葉が聞こえてきました。
「何が変なの？」と聞き返すと、「これ、みて。」と、味噌汁の味噌が沈殿しているのを指さしていました。へ～面白い所に焦点を当てるなぁと見ていると、スプーンで、沈殿している味噌汁を、チョンチョンと触って、沈殿が混ざる模様を何度も楽しんでいました。
　私はこのことをきっかけに、調べてみました。【味噌汁の中で雲のようなものは、ベナール現象と言い、味噌汁の表面が冷やされることで密度が増し、下部に沈むことから起こる対流。また、味噌という細かい粒子が浮遊しているだけなので、沈殿現象が起きる。】こんな難しい説明はさておき、彼に学ばせてもらいました。子どもの気づきって様々なところで起こります。これからも、知りたい、学びたい、この時期が大切なんでしょうね。面倒くさがらず付き合っていきたいと思います。

1月ヴィジブルみどり野保育園

ぼくも、わたしも、オラトリオのメインをやってみたい！

12 月に入ると、幼児みんなでオラトリオの練習に取り組みます。それまでは「クリスマスってサンタさんからプレゼントをもらえる日でしょ」という認識だった子どもたちも、本来のクリスマス物語を知り、どんな人が出てくるのか、や自分たちが歌う歌はどんな場面の歌なのか理解していきました。一緒に練習してるうちに 5 歳児の姿に憧れて遊びの中でオラトリオを再現する姿が出てきました。

マリアさんは、イエスさまのおかあさん。
マリアさんになりきって赤ちゃんイエスさまをお世話します。
ちなみに、この赤ちゃんイエスさまは熱が出ているそうで、
体が熱いので冷蔵庫に入れて冷やされていました。

こちらも、マリアさんです。
ワンピースとベールでマリアさんに変身。ベールがきちんとかぶれているか、鏡でしっかり確かめています。手には、オラトリオでマリアさんが持つユリの花に見立てた標識の玩具を持っています。

「羊飼いの杖が曲がっているのは、羊をひっかけて助けるためなんだよ」
保育士から聞いた話を遊びに取り入れつつ、年下のお友達にも伝えています。

くじらさんのお手本を見ながら、一緒に歌っています。
座っているのがマリアさん役、立っているのがガブリエル役です。

Ａくん(らっこさん)はくじらさんの真似をして、4人目の博士になっています。贈り物を大事そうに持ち、静々と歩いていくＡくん。
「歩いてきて」「贈り物ここに置いて」「お辞儀して」くじらさんの言葉を真剣に聞きながら、博士になりきっています。

星の先頭が持つお星さま

赤ちゃんイエスさま　博士の贈り物　羊飼いの杖

身近なおもちゃで、オラトリオを再現！
マリアのユリの花、羊飼いの杖、星の先頭が持つお星さま、イエスさまなどおもちゃをオラトリオの小道具に見立てています。

くじらさんに憧れて真似をするらっこさん、お友達にホンモノを伝えようと一生懸命話すくじらさん。それぞれのやり方でクリスマス物語を理解し、オラトリオを楽しんで深めて行く姿がありました。
普段から一緒に過ごしているからこそ、お互いの姿や遊びに気付き、憧れ、真似をし、教え、学び合うことが出来ると感じました。
大人から子どもへ、大きいお友達から小さいお友達へとクリスマスの意味と喜びが広がっていった 12 月でした。

そら ヴィジブル 1 月